

国際緊急援助隊・医療チーム、30周年から新たなステージへ

01



セミナーでは歴代のJDR医療チーム関係者が講演

1月20日、国際緊急援助隊（JDR）医療チームの前身である国際救急医療チーム（JMTDR）の設立30周年を記念するセミナーがJICA関西（神戸市）で開催されました。JDRは、海外で地震や津波、洪水などの災害が発生した時、人命救助や医療活動などを実施する組織。医療チームは、全国の有志の医療関係者により構成されています。セミナーの第一部では、JDR医療チーム支援委員会の甲斐達郎委員長をはじめ、歴代の委員長らがJDR30年の歴史を振り返りました。カンボジア難民の救済をきっかけに、1982年にJMTDRが設立された経緯、当時からかわった人たちの思い、現場での苦労話などが語られました。



JDR医療チームは、次の派遣時にテント内で大規模な手術ができるよう研修を進めている

また、84年のエチオピア干ばつ被害、2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波、2010年のハイチ地震など、これまでに計60チーム、のべ約9000人が被災地で行ってきた緊急援助活動について紹介。こういったJDRの長年の経験が、2011年の東日本大震災での支援活動に生かされたことも強調されました。

第二部では、JDR医療チーム総合調整部会の大友康裕部会長が講演。チャーター便を導入することで迅速な派遣が可能になったこと、さらに高度な医療活動を実施できるよう、手術機材の導入の準備を進めていることなどを紹介しました。また、医療チームのメンバーが設立したNPO法人災害人道医療支援会の鶴岡卓顧問は、JDR経験者が海外の災害現場で活躍している事例について、看護師の石井美恵子さんは、東日本大震災で「災害支援ナース」の体制を構築した活動について報告しました。また、講演後には参加者との意見交換が行われました。

より効果的な緊急援助活動の実現に向けて、JDR医療チームの今後の活動に期待が寄せられています。

02

海外投融資事業、再開後初のインフラ事業がスタート

1月30日、JICAは、海外投融資を活用したベトナムのインフラ整備事業に調印しました。海外投融資は、開発途上国の開発を促進するため、民間企業が実施する事業をJICAが出資や融資を通じて支援するもの。昨年10月に本格再開されてからは、本事業が初めて調印される案件になります。

ベトナムでは一般的に、工業団地からの排水による公害、工業用水の需要増加による地下水の枯渇が深刻な問題になっています。本事業は、海外投融資を活用して、株式会社神鋼環境ソリューションと神鋼商事株式会社

が現地企業と共に、工業団地向け排水処理や給水事業などを実施するものです。環境配慮を徹底した工業団地を整備することで、ベトナムの産業発展と環境対策の両面に対応した持続可能な成長支援に加え、日本企業の投資環境整備にもつながることが見込まれています。

今後は、神戸市が浄水場の運営管理に参画する予定。官民連携によるパッケージ型インフラ輸出のモデルケースとなることが期待されます。JICAは引き続き、海外投融資事業に力を入れていきます。

03

大阪で「ワン・ワールド・フェスティバル」開催

2月2〜3日、関西地区最大の国際協力のイベント「ワン・ワールド・フェスティバル」が大阪国際交流センターで開催されました。会場では2日間にわたり、関西を拠点に国際協力を行う企業や大学、NGO、国際機関などがブースを出展。国内外での国際協力の取り組みを紹介しました。

JICAも来場者に国際協力に関心を持ってもらえるよう、さまざまな企画を準備しました。JICA関西のブースでは、各国での取り組みやボランティア事業をパネルで展示。NGO、国際機関、JICAが共同で実施している「なんとかしなきゃ！プロジェクト」のブースでは、来場者に書いてもらった世界へのメッセージを世界地図に貼り付けました。

メインステージでは、「なんとかしなきゃ！プロジェクト」著名人メンバーの真戸直人さん（アンダーグラフ）と、田中雅美さんが

そろって登壇。それぞれが視察したマラウイ、タイについて報告するとともに、国際協力に携わるようになったきっかけについて話しました。トークの後には、真戸原さんの弾き語りにも多くの人が聞き入っていました。

毎年恒例、医師の桑山紀彦さんの「地球のステージ」では、音楽と語りでアフリカの

今、が伝えられ、昨年ウガンダを視察した国際協力レポーターの芝山葉奈さん、公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）の折居徳正事務局長とのトークショーも行われました。



JICAブースを訪れた来場者